



AMDA 兵庫県支部便り



Vol.3 2012.4～2013.3 AMDA 兵庫県支部

☆いつもご支援いただきありがとうございます☆
☆AMDA 兵庫県支部はネパール子ども病院の支援を柱に、2012年度はこんな活動をしました☆

シッダールタ母子専門病院（通称、ネパール子ども病院）の新病棟が完成しました！

（特活）AMDA 社会開発機構 海外事業部 小林麻衣子

2013年3月14日（木）、ネパール子ども病院の新周産期病棟完成を祝う記念式典が、ルパンデヒ郡プトワル市にある同病院で開催されました。

記念式典には、ルパンデヒ郡行政機関のトップである Chief District Officer の Mr. Durga Prasad Pokharel の他、開発局局长、保健局局长、プトワル市商工会議所などから多くの来賓者にご参列いただき、お祝いのお言葉を頂戴しました。日本からも AMDA グループ代表の菅波茂が訪れ、両国の関係者がともに会し、新しい病棟の完成を祝うことが出来ました。また、この新病棟建設にご支援いただいた日本国外務省を代表して、在ネパール日本国大使館の高橋邦夫特命全権大使より暖かいお祝いのメッセージも頂戴しました。



開会式の様子

1998年11月に開院したシッダールタ母子専門病院（小児科、産婦人科）ではこれまで、述べ66.5万人ものお母さんと子どもに対し医療サービスを提供してきました。しかしながら依然、新生児集中治療室（NICU）で治療を受ける赤ちゃんの6人に1人が亡くなり、生まれてくる赤ちゃんの26人に1人は死産という、厳しい現実と直面していました。そこで、母子の命を救える重要な期間とされている周産期（妊娠22週目から出生後7日未満の期間）医療を充実させるため、母体・胎児・新生児を総合的に管理できる周産期病棟を設立することになりました。



新周産期病棟

2階建て、幅18,19m×奥行65.22m×高さ9.13mの新しい周産期病棟の建設は2011年7月下旬に始まり、2012年11月末に完成しました。新病棟では、陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、NICUなどを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理できるよう配慮しています。

この病棟が完成に至るまでの道のりは、なかなか険しいものでした。ほとんどの作業は機械ではなく「人力」で行われます。作業に従事するのは、近隣の農村に住む日雇いの労働者たちですが、彼らはよりよい待遇を求めてカトマンズに集中する傾向にあり、経験や技術をもった作業員を確保するのは非常に難しい状況でした。

施工管理は、現地の建設コンサルタントが中心になって行いますが、朝から晩まで現場に貼りついて作業員の働きを監督している訳ではないため、全ての作業員に適切な指示がいき届いていなかったり、作業の質にばらつきが見られたりすることも多々ありました。この様な状況において、AMDA 社会開発機構の木下調整員（当時）は、病院スタッフなどで構成される「プロジェクト調整委員会」を立ち上げ、スタッフ自身が「自分たちの病院を自分たちの手で作り上げる」という意識を持って、建設状況を監視していく体制を整えました。また、木下調整員自身も、建築を専門的に学んだことがないにもかかわらず、「建設業務指示書」を誰よりも読みこみ、作業状況について現場監督者と対等に議論するなど、現場には不可欠の頼もしい存在となっていました。



現地建設コンサルタントと協議する木下氏

一方、政情が不安定なネパールでは、「バンダ」と呼ばれるストライキが頻発し資材や作業員の調達が停滞したり、大量に必要なレンガやタイル等の資材について均一のものが手に入らなかったりするなどの外部要因の影響が多々あり、その度に関係者で頭を悩ませ、解決策を講じてきました。

「手がかかるとはよく言ったものです。新周産期病棟建設の構想は、2008年1月に、AMDA 兵庫県支部長江口先生が現地を訪れて以来描いてきたもので、様々な苦労を重ねてようやく現実のものとなった新病棟を目の前にすると、私も万感の思いでした。



1階部分内部の様子

もちろん、一番喜んでいるのは病院スタッフであることは言うまでもありません。ビノー院長はこう語ります。

「新しい病棟を建てるという話がでてきたとき、正直、夢物語だと思っていた。自分たちだけでは決してできなかったことだ。この病院が、いつも日本のたくさんの人々に支えられているということは、私自身にとっても、スタッフたち全員にとってもモチベーションにつながっている。病院を取り巻く環境には、まだまだ課題もたくさんある。けれど課題がなければ希望もない。患者さんにとってより良いサービスと環境を提供できるよう、更になんげしていきたい。日本の人々の想いを、ここを訪れるひとりでも多くの患者さんたちに伝え、ネパールと日本をつなぐ友好のシンボルとしてこの病院を成長させていきたい。」



手術局入り口

病院では既に、次の建物の建設に取り掛かっています。

患者さんが入院中に、その家族が寝泊まりできる「患者家族棟」を、AMDA 兵庫県支部のご支援によって建設しています。この建物が完成すると、これまで病棟の廊下に毛布を引いて寝ていたり、近隣の宿に泊まって経済的な負担が大きかった家族たちが、安心して病院に来ることができるようになります。

完成見込みは 2013 年の秋頃を予定しており、今年の 11 月で設立 15 周年を迎える病院に、新しい「花」が添えられることになるでしょう。

兵庫県支部の皆さま、この秋には是非ネパール子ども病院をご訪問くださいね。



正面から入院病棟と左奥に新周産期病棟を臨む

最後になりましたが、兵庫県支部の活動を通じてネパール子ども病院をご支援下さっている皆さまに、心よりお礼を申し上げますと共に、今後とも暖かいご支援の程、お願い申し上げます。

◇ シッダールタ母子専門病院訪問 ◇

相羽亜紀子

2012 年 5 月 17～27 日ネパール ルパンデヒ郡プトワル市へ旅立ちました。目的としては、「シッダールタ母子専門病院」へ人材育成支援・周産期医療サービスの改善を図るためと、新周産期病棟の設立にむけての視察でしたが、私自身ネパール訪問 4 回目であり、ネパール現地の子どもたちに会えることが何よりの楽しみでした。実際、その時期プトワル周辺では制憲期日前で、政情が不安定化しており、村の活気も停滞していましたが、病院周辺にいくとヤギの群れと一緒に子どもたちが、はしゃいで、走りまわっていました。また、患者の家族たちが、寝泊りし洗濯物を干したりする姿も見られました。以前に比べ、商店が増えたせいも、経済的にも裕福になっているのか薪を焚いて御飯を作っている人の姿は減っていました。



子どもたちと一緒に♪



お母さん豚と子豚たち

さて、病院内では、OPD・OP・NICU・分娩室・病棟と見

学して回りました。壁には、ボランティアで頂いたという子どもむけの遊び道具やキルティングアートが、飾られていて、病院内が明るくなっていました。しかし、薬剤部や OP 室などは物が繁雑に整理されていたり、救急カートなどの中は、物が混ざって何があるのかわからない状態ということがありました。これは、日本でもいえることですが、物が多くなると管理面では誰かが指揮をとって整理していかなければいけません。まず、この状態で問題点を提示していき、本人たちが、気づき、自分たちで改善策を考えて実行してもらう方法を取りながら、環境改善を図りました。実際現場で活動している医療者自身が、各々に感じていることや思いが聞けることもでき、現場の現状を知ることができました。ネパール訪問へは、医療関係者だけで

なく実際現地に行き、まずは自分の目で見て何か感じ得てほしいと思います。AMDA・ネパール・子供・文化・医療・人などに興味があればぜひ一度ネパールに行ってください。たくさんの笑顔が待っていますよ。

§ 雄勝だより §

小倉健一郎

東北津波震災から 2 年が経ちました。被災地の状況は、見た目にはあまり変わっていません。津波の被災地は瓦礫や壊れた家屋、ビルなどが撤去され、何もないただ広い空き地になっています。外部の人がやってきても、そこに家並みや人々の生活があったことはまるで感じられないでしょう。殺伐とした風景が広がり、ダンプカーやショベルカーが行き交い、砂ぼこりが舞っています。あちこちで瓦礫の処理や道路の補修、復興に向けた工事が続けられていて、落ち着かぬ騒然とした雰囲気、気分がイライラすることもあります。復興まであと何年もこのような状態が続くと思うと嫌になります。



雄勝診療所

雄勝診療所は開院して 1 年半が過ぎました。日々の診療は毎日同じことの繰り返しで、高齢者相手の外来と訪問診療、特別養護老人ホームの回診などを行っています。週に 2 回、石巻赤十字病院の 1 年目の研修医を受

け入れて、地域医療を学んでもらっています。

雄勝を元気づける活動も続けていて、この冬場は高齢者を温泉に連れて行くツアーを4回やりました。震災2年目の3月9日には「被災地ウォーク in おがつ」という、雄勝の被災中心部を語り部とともに歩くイベントを開催しました。60名もの参加者の中には東京など遠方から来られた人がたくさんいました。春になれば、お花見イベントや「鯉のぼりプロジェクト」なども昨年に引き続きやりたいと思っています。人口が激減し、若い人のいなくなった雄勝での活動は容易ではありませんが、人々の健康を守りつつ、殺風景で何もない雄勝を少しでも活気ある場所にできるよう、頑張っていきたいと思っています。



『希望のキャンパス』に花を咲かせるイベント



被災地ウォーク in おがつ



温泉ツアー

☆ きらり夏祭り ☆

鈴記好博

2012年7月15日、東日本大震災の復興地である岩手県大槌町の大槌北小学校にある「福幸きらり商店街」で行われた「福幸きらり夏祭り」にAMDA兵庫県支部員およびボランティア総勢20名で参加してまいりました。

AMDA兵庫県支部からの「大槌町地元の皆さんが一堂に集まれるイベントをやりませんか？」との声かけから、地元住民の皆様の大変な頑張りにより開催にこぎつけたお祭りで、来場者も1000人を超え大成功に終わりました。

兵庫県淡路市の「淡路ビーフ新谷（新谷福松社長）」様から、淡路ビーフ70kgとフライドポテト、淡路玉葱200kgの御提供と、職員4名様への派遣もして頂き、早朝5時30分から準備を始めた「淡路ビーフもも肉の丸焼き」は、お祭り開催から2時間程で全て無くなりました。沢山の方から「元気をもらいました」「また大槌に来て下さい」などのメッセージを頂きました。お肉を食べて頂いた方々には募金をお願いし、集まった56766円をすべて福幸きらり商店街に寄付させて頂きました。

また、AMDA兵庫県支部ブースも設置し、健康相談、血圧測定、アロマハンドマッサージも行い、たくさんの方に来て頂け、お話しのお機を持つことができました。



淡路ビーフを待つ人の列



淡路ビーフもも肉の丸焼き



アロマハンドマッサージ

♡ おおつちママサークル「ひだまり」で親子ヨガ&マタニティヨガを開催 ♡

早瀬麻子

岩手県にある大槌町の仮設住宅のママ達が立ち上げた自主サークル「ひだまり」さんのご縁で、7月に親子ヨガ&マタニティヨガ・アロマミスト作りなどを行ないました。NPO 法人日本ヨガ連盟さんや花巻、釜石の助産師さん達など多くの方々のご協力により、今回の企画を実現することができました。ヨガは初めてという方も多かったのですがとても喜んでいただき、身体を動かすと心もほぐれておしゃべりにも花が咲いていました。ママたちもスタッフも一緒にヨガやアロマを楽しむことができ、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

狭い仮設住宅では身体を動かしたり、子どもたちがのびのびと走り回る場所がまだまだ少なく、子育て世代のママさん達が楽しく育児ができるようこれからも応援していきたいと思っています。



マタニティヨガ



参加者全員での記念写真♪



親子ヨガ

アースデイ神戸 2012 に参加して

5月5日(祝)、みなとのもり公園で開催されたアースデイ神戸に今年初めて参加しました。”一緒に考えたい、地球のこと”と題されたこのイベントには、エコ、ロハス、子育て、国際協力など様々な分野からの出店で賑わいました。

お天気にも恵まれ、家族連れやアムダの活動に興味ある方、同じように海外支援されている団体の方などがたくさんブースに遊びに来てくださりました。

こうして私たちの活動を知っていただき、たくさんの方達との輪が広がり、つながっていただけることに本当に感謝です。



AMDA 兵庫県支部写真展 (兵庫医療大学内にて)

2013年1月から、ポートアイランドにある兵庫医療大学の地域連携室でAMDA兵庫県支部写真展を開催しています。

AMDA兵庫県支部のことや活動内容、メンバー紹介を掲載しています。同時に一緒に活動するメンバーを募集しています。

第1回「AMDAネパール子ども病院(シッダルタ母子病院)」が終わり、現在、第2回「東北支援」が開催中です。これからも2、3ヶ月ごとに内容を変えて掲載していく予定です。



地域連携室の開閉時間は、平日の9:30~16:00まで。地域連携室の行き方や詳しい内容は、AMDA兵庫県支部HPをご覧ください。

どなたでもお越しいただけます。多数のご来場をお待ちしております。

＝支部長便り＝

江口貴博

いつもAMDA兵庫県支部およびネパール子ども病院の活動にご理解とご協力を頂きましてありがとうございます。皆様のご支援のお陰を持ちまして、2013年3月に3つめの新病棟として産科病棟がオープンしました。今後更なる妊産婦死亡率の低下が期待されます。そして、患者さんの家族の方々の付添い環境の改善を目指して、ファミリーハウスの建設を開始しました。また今年も、東日本大震災の被災者の方々への支援も継続して行う予定です。これからも皆様の優しい心を現地に届けられるように精一杯頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

＝AMDA 兵庫県支部活動記録【平成24年4月1日～平成25年3月31日】＝

- 平成24年5月5日(祝) アースデイ神戸参加 (藤本瑞穂、早瀬、桶川、中山、中田)
- 平成24年5月17～28日 ネパール子ども病院視察 (神徳規子・神徳和郎・藤本亜紀子)
- 平成24年6月3日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 平成24年6月17日～7月3日 パシフィックパートナーシップ2012参加 (早瀬)
- 平成24年7月6日 「国際ボランティア活動論」講義 神戸女子大学に於いて (早瀬)
- 平成24年7月13日 「国際ボランティア活動論」講義 神戸女子大学に於いて (鈴記)
- 平成24年7月14日 大槌ママサークルひだまり 親子ヨガイベント (早瀬)
- 平成24年7月15日 岩手県大槌町「福幸きらり夏祭り」淡路牛丸焼きイベント参加 (小倉、中山、神徳和郎、神徳規子、鈴記、早瀬、藤本瑞穂、桶川、小林真也子)
- 平成24年9月2日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 平成24年11月3日 明石公設市場35周年大会参加、救護所開設(看護師駐在) (中山、桶川、小林真也子、早瀬、岩村、中田)
- 平成24年11月20日 「国際協力の授業」淡路市育波小学校 (鈴記)
- 平成24年12月2日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 平成24年12月 日本フィナンソロピー協会広報誌「フィナンソロピー」12月号巻頭インタビュー・その後掲載 (江口)
- 平成25年1月13日～ 兵庫県支部写真展開催(兵庫医療大学地域連携室に於いて)
- 平成25年1月24日 「国際協力と災害緊急医療支援、地域医療、総合医療との接点」徳島大学医学部で講義 (鈴記)
- 平成25年1月27日 ペイフワード講演会 シンポジスト (鈴記)
- 平成25年2月3日 ワンワールドフェスティバル参加 (江口)
- 平成25年3月3日 二見ボウルチャリティーボウリング大会

＝ネパール支援 ご寄付(敬称略)【平成24年4月1日～平成25年3月31日】＝

桜井智也、菅ファーマシー、石井健二郎・征子、小林ヒサ、常沢まゆみ、早瀬麻子、AMDA神女クラブ、大阪ガスともしびクラブ、ダ・カーポ音楽事務所、神戸市薬剤師会、震災記念公園、藍の都脳神経外科病院、奇兵隊、水の都記念病院、岡田博也

＝東北震災支援 ご寄付(敬称略)【平成24年4月1日～平成25年3月31日】＝

淡路ビーフ 新谷

AMDA 兵庫県支部：所在地 〒673-0896 明石市日富美町5-16ハリマビル3階 にじ作業所内

メールアドレス amdahyogo@yahoo.co.jp

定例会 毎月第一土曜日 毎日新聞社神戸支局 3階会議室にて